

浄国寺通信

第16号
平成26年10月3日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山義昭

浄国寺晋山結制を

挙行致します 今度こそ。

延期の経緯

昨年、七月のお盆が終
わった十七日、不注意で
寺の庫裏の階段から足を
踏み外し、腰をしたたか
に打ってしまい「第三腰
椎の破裂骨折」の診断で
した。翌四月に保育所の
開設、新制度への対応も
控えていたので、何とか
行しようと考えました。
しかし、コルセットを着
けた状態では五体投地の
お拜もできない、近隣の
方丈様方の都合もつか
ない、何より私自身の細
い準備が殆どできていな
い現実を前に、一年の延
期を決定しました。幸い、
腰の回復も順調ですし、
無事に保育所も開設でき
ました。新しい制度の施

晋山式とは

前にも一度触れましたが、
再度晋山式の内容を説明致し
ます。
お寺は本来、住職のもの
ではなく、檀信徒の皆様
を護る為の色々なお世話
の役を務めるのが檀家総
代の方々です。住職は、
総代の方々によって、自
分達のお寺にふさわしい
住職僧侶として選任され、

浄国寺第八世住職晋山結制
日時 平成二十六年十一月九日(日)
午前九時より 稚児行列出発
新命住職 晋山式 晋山開堂
首座法戦式(首座 雲巖寺徒弟 馬場英俊 禅兄)
檀信徒総供養
祝齋
お祝いの赤飯を用意しております。 出欠及び人数を同封
の葉書で返信下さい

晋山結制の流れ

当日の朝、近所の
安下処と呼ばれる檀家総
代の家に到着し、旅装束
を解き正式な法衣に着替
えます(当寺の場合は、
メモリアルホール高平に

寺に招かれて就任します。
選ばれた僧侶は、その寺
に出向き、檀信徒の方々、
御開山と歴代住職に挨拶
をして、住職就任の決意
表明を行います。これが
晋山式です。お寺は元々
山に建てられる事が多く
各お寺には山号がありま
す(例 比叡山延暦寺、成田
山新勝寺、高野山金剛峯寺等)。
当寺の場合は本覚山とい
う山号です。その山に晋
むので晋山式と言います。

晋山開堂

新たに任命された住職
が、この寺の本堂を仏道
修行の場所として開く儀
式です。方丈を出て、改
めて本堂に向きます。
入堂後、新命住職は本尊

首座法戦式

住職として就任したか
らには、その日から改め
て修行の日々に入り直し
ます(これを結制と呼び
ます)。この時に、一緒
に修行をしてくれる若い
雲水(修行中の僧侶)の
長老代表者も修行者の
リーダーとして特別な修
行に入ります。この修行
僧のリーダーを首座と呼
びます。首座の力量と意

様が祀つてある須
弥壇上に登壇しま
す。この時、祀つ
てあるお釈迦様を
幕で覆い、新命住
職は壇上で、この
寺の住職としての
決意の言葉を表明
し、歴代の住職方
に挨拶すると共に、
住職としての力量
を備えているかど
うか判断して頂く
為に他寺の僧侶か
らの問答を受けま
す。問答を終えた住職は、
自分なりの布教方針を述
べ、御礼を言った後、壇
上から降ります。代表の
僧侶からのお祝いの言葉
を頂戴し、本堂から退堂
します。ここまですが晋山
開堂の式です。

思表示を示す為に、若い修行僧同士のテーマを決め、その問題に關しての激しい問答が行われます。これが首座法戦式です。今回の首座は、熊本市松尾町岩戸にある雲巖寺(靈巖洞や岩戸観音で有名)のお弟子さんで馬場英俊さんと言います。現在、新命住職以上に緊張して準備を行っているようです。

出家をする時に行う得度式、首座としての法戦式、そして住職になる晋山式、この三つの儀式は曹洞宗の僧侶にとつて最も大切な三大儀式です。私は十五年前に管長より浄国寺の住職辞令を受け、法的にも浄国寺の代表として登記も済ませておりますが、まだ晋山結制を行っておりませんでした。師匠である先代住職(父 中山道全)の存命中に行うべきだったのですが、諸々の事情もあり今日に到った事が残念です。今回は、最後に報恩感謝の意味も含め檀信徒総供養を行います。

お祝いの篤志

今回の晋山式にあたり、檀家一件当たり一口いくら

と言う寄付を御願います。晋山式では行われるらしいのですが、毎回、お話ししてはいますが、私は幼稚園長として生計をたて、お寺への布施は、全て寺の為に使うようにしております。この五年ほどで、屋根の修理、床板の貼り替えも済ませておりました。今回の式の為に、古くなった柱巻や幕等(五色幕も含め)の布の取り替え、開山歴代住職の位牌を祀る開山堂、禅を中国に伝えた達磨大師、仏道を守って下さる大権修理菩薩を本尊様であるお釈迦様の両脇に祀る場所の作成と仏像の安置を行いました。それでも、本堂の一部改築や什物の購入等若干の費用はかかっています。又、今回の儀式の挙行そのものにも出費もかかりそうです。今回の晋山式に当たり、寺報に記したところ、お祝いの篤志を御寄進して頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。住職として、皆様に無理を申し上げるつもりはありません。ただ、浄国寺は住職の物でなく、檀信徒皆様の心の依り所であり、先祖の眠る場所です。

お布施は、僧侶に対しての報酬や読経への謝礼でもありません。布施とは見返りを期待することなく、自分の持つている力や財物、そして智慧を供える修行を意味する言葉です。今回いただきました篤志は、晋山式の為に大切に使用させていただきます。有り難うございました。

「いま心にZEN」晋山記念 特別企画

「お寺を少しでも身近に感じて欲しい、お寺の敷居を低くしたい」との思いから数年前より「いま、心にZEN」としてイベントを企画してきましたが、今年も晋山式の特別企画にしました。

今年で四回目になる鈴木良雄氏のジャズ演奏会です。ジャズと言っても小難しい音楽でなく、日本人の心の琴線に触れるような美しいメロディの演奏会です。私の記念企画と言ふ事で、スペシャルメンバーで来てくれます。毎年、続けて参加される方も増えました。初冬の夜を音楽三昧でお過ごし下さい。

仏教特別講演会 南直哉老師 講演会 十一月十六日(日)午後二時

以前にもお知らせしましたが、在家出身で、早稲田大学卒業後に発心して出家。永平寺で二十年以上も修業を積まれ、現在は青森県の

恐山で院代を務められている南直哉老師の講演会を行います。老師は現在、宗門きつての論客で、宗門のみならずマスコミ等でも活躍中です。一般寺院での講演は殆どできない状態ですが、私が聞きたいという熱意で無理を言い、今回の特別講演会が実現しました。滅多に聞けない、仏教と禅の深淵に迫るお話が聞けます。入場は無料です。是非、多数の方にお出で戴きたいと思ひます。檀信徒以外の方も誘い下さい。

鈴木良雄 & Bass Talk 十二月六日(土)午後七時

念企画と言ふ事で、スペシャルメンバーで来てくれます。毎年、続けて参加される方も増えました。初冬の夜を音楽三昧でお過ごし下さい。

繰り返しになりますが、お寺を身近な存在として感じて下さい。

身の雑記 この国が、本当に心配になってきた。国は、永續性があるもの。つまり、ある程度長いスパンで政策は運営されなければならぬはずだ。しかし、この国の政治家や官僚、マスコミ等、所謂国家権力に携わる人々の目には、まるで国は収益目的の営利企業と同じように写っているのではないだろうか？景気回復は大切だ。経済成長率を一つの数値目標にする必要もあるだろう。しかし、国民は経済的な強者だけではない。そして、弱者の安心を保障するのにも国の務めの筈だ。福祉、医療、教育は決して近視眼的な経済効果を産むものではない。しかし、これを軽視すれば、国の将来は危うくなる。集団的自衛権や憲法論議も盛んだが、国は戦争や外交問題だけで滅ぶものではない。自滅も一つの亡国の形だ。自分の上昇志向のみで動く政治家、自己保身の為に目標をクリアする事だけを至上命題にする官僚。一時の視聴率と受け狙いのマスコミ。大きな声を出したものが作る世論(のようなもの)。経済効率と等価計算を基準に行動する経済人。大丈夫だろうか？最も等価計算の成り立たない世界。宗教は、その典型だろう。坐禅をしても一銭にもならない。だからこそ、宗教は尊いはずだ。

木曜坐禅会(初回要連絡) 毎週木曜 夜八時より 坐禅一炷 仏教講話 会費会則一切なし